

## 請求書と領収書

2023. 7. 3

「請求書の人生」というものがある。もっと、もっと、もっと、際限なく欲しがって生きることである。世の中には、そういった生き方をしている人がいる。一方、寺社にお参りするときには、「ありがとうございます」とお参りする。これは、請求書ではなく、領収書のお参りである。

向上心や探求心は、人の成長に欠かせない大切な条件である。しかし、度の過ぎた欲求は、人を卑しくし、ひいては人の尊厳を傷つけることにもつながる。求めるばかりではなく、今、与えられているものごとに感謝の心をもつ「領収書の人生」を歩んでいきたい。

日本には、領収書の生き方をしている人がたくさんいる。そういう人は、世間から注目されることはない。請求書の生き方をする人が、派手で目立つのに比べて、領収書の生き方をする人は、地味で人目のつかないところが共通しているからである。

誰からも注目されず、光の当たらないところで、いつ報われるかわからないことにも、心を込めて取り組んでいる姿からは、卑しきは微塵も感じられないだろう。他人に頼ったり、求めたりすることなく、人の役に立つことだけを念頭において、一途に歩み続ける姿は、人を惹きつける豊かな魅力を備えている。

寺社にお参りをすることがある。ほとんどの場合、「〇〇してください。〇〇しますように。お願いします」と、心の中でお願いしている。まるっきり、請求書である。「ありがとうございました」というのは、合格祈願をした学問の神様などに、お礼をいうときぐらいだろうか。

人が生きていく上では、請求書も必要なのだと思う。だが、請求書ばかりになってはいけない。どのくらい領収書の生き方ができるか、それが重要である。感謝することなしに、求めるだけ求める、いつの間にか、そうになってしまうことがある。

一隅を照らすが如く、地道に、ものごとに感謝しながら、様々なことに心を込めて生きている方がいる。こういった方たちは、きっと一度会っただけで、互いの人柄に惹かれ合うのだろう。まるで、以前からの知り合いのようになるのではないか。縁が縁を呼ぶ。

請求書と領収書の人生から、我が身を振り返ると、ずいぶんとわがままだと反省しきりである。自分ではそうは思っていないくとも、いつの間にか、請求書が増えている。人は欲深い生き物である。欲には限りというものがない。今までは、あまりも領収書が少なかった。これではいけない。これから挽回してしこうと思う。